

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人ゆうえい会	代表者	理事長 久住 一男	法人・事業所の特徴	理念 「ゆっくり いっしょに たのしく」 せかしたり、おしつれたりすることなくその方に合わせた生活を支援します。 顔なじみの人たちに囲まれた家庭的な環境の中を作ります。 今までの生活習慣や想いを大切に自分らしく笑顔の多い毎日を過ごしていきましょう。
事業所名	小規模多機能居宅介護 ゆうばえの家	管理者	鷲尾 圭彦		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	自己評価の内容は多岐にわたるので、時々ケースの検討や会議の場で改善計画の確認を行うようにする。	改善計画に沿ってできたもの、できなかったものがあった。できないものに関しては日常の業務から離れたものを改善計画にあげていた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>改善計画通りではなかった様子だが、柔軟に問題に対応された結果と思われる。</li> <li>現実的であり、達成可能である。</li> </ul>	業務に密着する形の改善計画を作成した。
B. 事業所のしつらえ・環境	引き続き、感染対策の清潔保持とともに、掃除や環境整備を行い、居心地の良い空間を作る。	毎日の座席の設定、家具、テレビの位置の検討を行い、変更した。感染対策ではマスクを着用を時間を決めて定期的呼びかける。換気を定期的に行う等を実施。	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍により目視により確認はできず。従来の姿勢により判断した。</li> <li>利用者の方々にとって居心地の良い空間になっている。</li> </ul>	引き続き家具の配置については配置換えを検討していく。より快適な環境を目指して環境に変化を起こしていく。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の自治会や民生委員さんとの情報共有や相談など、個々の事例により電話やケア会議への参加など、顔の見える関係を継続していく。	部署会議を通し、伝達事項を伝えてきた。地域と関わる担当者がどこでだれと繋がっているのか情報共有が不十分だった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域に根差した施設として地域の方々から認知されている。</li> <li>コロナ禍により地域との関わりは限定されている為活動量減ったと思われるが評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域で関わりを持つ時は共有することを行う。</li> <li>地域を対象としたイベント実施したい。(感染症対策を万全に実施する)</li> </ul>
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	感染対策を行った上で、買物や外出支援等の日常生活上の便宜はなるべく制限しない方向で行っていく。	感染が比較的落ち着いた時は積極的に外出を実施。地域の馴染みの美容室に通い続けるよう、予約、支払い、送迎の支援を行なった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の方々の生活歴等を利用しようと努められ、前向きな姿勢が伺える。</li> <li>コロナ禍において地域との交流が減少しているが、従来の取り組みが評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染対策を行ったうえで利用者と共に地域に出っていく。</li> </ul>

E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議やケア会議等を生かして地域のイベント等の情報を収集し、利用者に参加してもらったり、事業所の運営やプランに生かす。	4月に運営推進会を開催。それ以降、6月、8月、10月、12月、2月は文章での開催になった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により顔を合わせての会議が開催されず文章のみとなった。</li> <li>・地縁者や民生員、自治会長などが集まり貴重な会議の場となっている。</li> </ul>	開催が安全にできると判断したら対面による開催を再開。それまでは、文章開催を継続していく。
F. 事業所の防災・災害対策	火災だけでなく、地震や風水害のマニュアルを見直し、訓練時には早めに計画を立て、地域の人にも参加していただくように計画する。	年2回避難訓練を実施。コロナ禍での開催だったので、地域の方の参加は行わず開催。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災計画について普段触れる機会がないが、災害時に備えて本部とも連絡しておられる。</li> <li>・地域の諸施設や本陣本部も目の前にあり、災害時も十分な対応ができると思われる。</li> </ul>	年2回の避難訓練を継続。

運営推進会議は開催せず、郵送で業務評価と外部シートを送付。6名の委員のうち3名から返信あり。

それをもとに総括表を作成した。